

7月1日

県の名勝天然記念物 “雲見の滝” 滝開き

本格的な夏の観光シーズン到来を前に、雲見の滝（三刀屋町多久和）で滝開き神事が営まれ、関係者らが期間中の安全を祈願しました。

大昔、滝に住む龍が天に昇ろうと、岩の上から空を見上げ、雲が通るのを待ちこがれていたという言い伝えから同名がつけられました。滝は雄滝（30m）と雌滝（20m）からなり、とうとうと流れ落ちる水音と、辺りに飛び散る水しぶきが涼しさを演出しています。

みなさん、この夏は身近なヒーリングスポットに出かけてみませんか？



この日はあいにくの雨模様。

7月12日

いざというとき 慌てずに対処を

アールや川などでの水遊びのシーズンを迎え、塩田小学校の児童や保護者らが救急法の講習を受けました。

講師の日本赤十字社ボランティア指導員の宮川勉さんから「プールサイド2〜3m以内が死角となり事故が起こりやすい」、「救急車が到着するまでの数分間に心肺蘇生法などを行うことが有効」と教わった児童らは、講習用の人形を使った心臓マッサージや人工呼吸に真剣に取り組んでいました。

学校や駅などの公共施設に設置されることが多くなったAED（自動体外式除細動器）の使い方も紹介した宮川さんは、「いざというとき慌てずに対処してほしい」と講習を締めくくりました。



6月29日

ホタルのために 私たちができること

田井公民館主催のホタル学習会で、田井小学校の3・4年の児童がホタルの生態に関する研究成果を発表しました。深野川でみるホタルの生態を学ぶとともに環境について考えることを目的に、3・4年生が総合学習として取り組んでいます。

児童はホタルの「産卵」、「発光」、「幼虫」などについてグループごとに研究した内容を、ホタルに関するクイズを交えながら、それぞれ発表しました。発表後、「ホタルのために私ができることは、川を汚さないこと」、「ホタルがもつといっぱい生まれるように二十貝を集めて川に放流したい」、「ホタルは24時間も交尾をして愛し合っている」と感想を話していました。



吉田のホタル博士こと森山一二三さん（右）から「昨年の豪雨によるホタルへの影響」を教わりました。

6月10日

有事に備えた機敏な動作 消防操法大会

斐伊川河川敷消防操法訓練場で雲南市消防団加茂方面隊消防操法大会が開催され、ポンプの部に1部、小型ポンプの部に10部が出場し、日頃の訓練の成果を發揮すべく、熱のこもった操法が展開されました。結果は次のとおりです。

- 小型ポンプの部
 - 優勝 加茂南分団 第1部
 - 準優勝 加茂南分団 第2部
 - 第3位 加茂中分団 第1部



優勝した加茂南分団第1部のみなさん

また、6月17日には、三刀屋川河川敷で三刀屋方面隊の消防操法大会が開催されました。同じく、結果をお知らせします。

- ポンプ車の部
 - 優勝 自動車分団第2部
 - 準優勝 自動車分団第1部
- 小型ポンプの部
 - 優勝 鍋山分団坂本
 - 準優勝 鍋山分団殿河内
 - 第3位 一宮分団高窪



6月28日

今年が最後 掛合地区児童学習交流会

今年度1回目の掛合地区児童学習交流会が行われ、同地区5校の児童が掛合小学校に集まり、学習を通して交流しました。

この学習交流会は、児童数の少ない小規模校の子どもにも、多くの人数での学習経験をさせたということから始まりました。

平成17年度から、各学期1回ずつ開催されていますが、来春、この5校は統合により一つになるため、今年度が最後の交流会となります。

6年生の交流学習の授業では、租税教室（社会科）が行われました。松江税務署の野口豊生さんを講師に迎えて、「税金の使われ方」や「税金がなかったらどうなるか？」などの話に、児童らは熱心に聞き入っていました。

授業の終わりに感想を聞かれた児童は、「税金の大切さがわかった」、「児童一人に毎月7万円の税金が使われていると聞いて驚いた」と話していました。



「税金を使って作られている施設はどれ？」のクイズが出され、小規模校ではむずかしい「グループ学習」も体験。



7月13日

昼間は年寄りだけでおーますだけん

木次町中谷地区の高齢者が中谷交流館に集まり、お昼ごはんを食べながら、話に花を咲かせました。

高齢化が進む中で、中谷地区では、昼間の留守番は高齢者がほとんどで、昼食はお年寄りだけで食べている家庭が多いことから、交流館での昼食と交流によりいきいきと楽しい時間を過ごしてもらおうと地区の「ばくらと会」が企画しました。

1回目のこの日は27人が参加。「楽しかった。また来たい」、「大勢での食事がおいしい」と好評の食事会となりました。



全員そろって「ハイチーズ」

